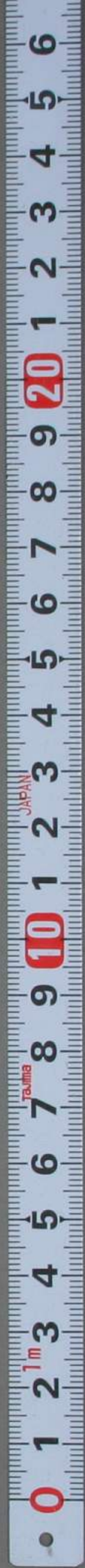


新板
絵入
長生伏木隠
五之巻

特別
12
3516
5



特
門 13
3516
卷 5



生伏木隠

目録

二巻

第一 菱をくづし小新切のり

菱をくづして飛でまきしき

菱をくづして飛でまきしき

秋のついでに術りきあつた

昭和二十九年
七月九日
贈求

才二

信人れ命はさつて出る日れ来る

日續りの暮人年利とる丁百六

兵のまのまのあつて中れ門出の酒

先格をひくを揮つる様の下れ終し者

才三

源氏繁昌の世味富貴は主事の世

血波の海の色をいまひる真夏の自害

草も本も海家の風もさびく白旗

美葉うま結河も家世富貴をひのき

① 一 張るくろ小新切のあつて書命れ終

地て仏術よ天仏地仏のちあつて書生となつる彰祖が如く

地とていれてるるの費長房があつてやと花あつて土とるり

聖葉の顔ぶれと入大海と耳にえい沙神にえと入て鏡と

約灰吹の滑りうたてのち中に杜舟とこうせきあつていから

術とて入とるるの看主はて我々の末葉の代漢の代よとる

らやて人等は奇術は化されぬ聖人の後よ人い地はうて

出せするものされいさ終のこくをさかたりやのつとつてい

るさるありと用い終りて皆あつる邪敬あつてこの命

とあつてはげすむる書命と書くるもいとい書命あつて

好むゆえに板も書命が書命の信人終るあつて本のあつて



ゆりのたに
くろくまが
まのひのうと
とてり

これハ
お中ハ

たののた
くろくまが
まのひのうと
とてり

オガこのつて
うしりきさぞ

なつらふ
まらふ



あまのつら
せんせんとや

あまの
せんせんとや
あまのつら

あまのつら
せんせんとや
あまのつら

あまのつら
せんせんとや
あまのつら

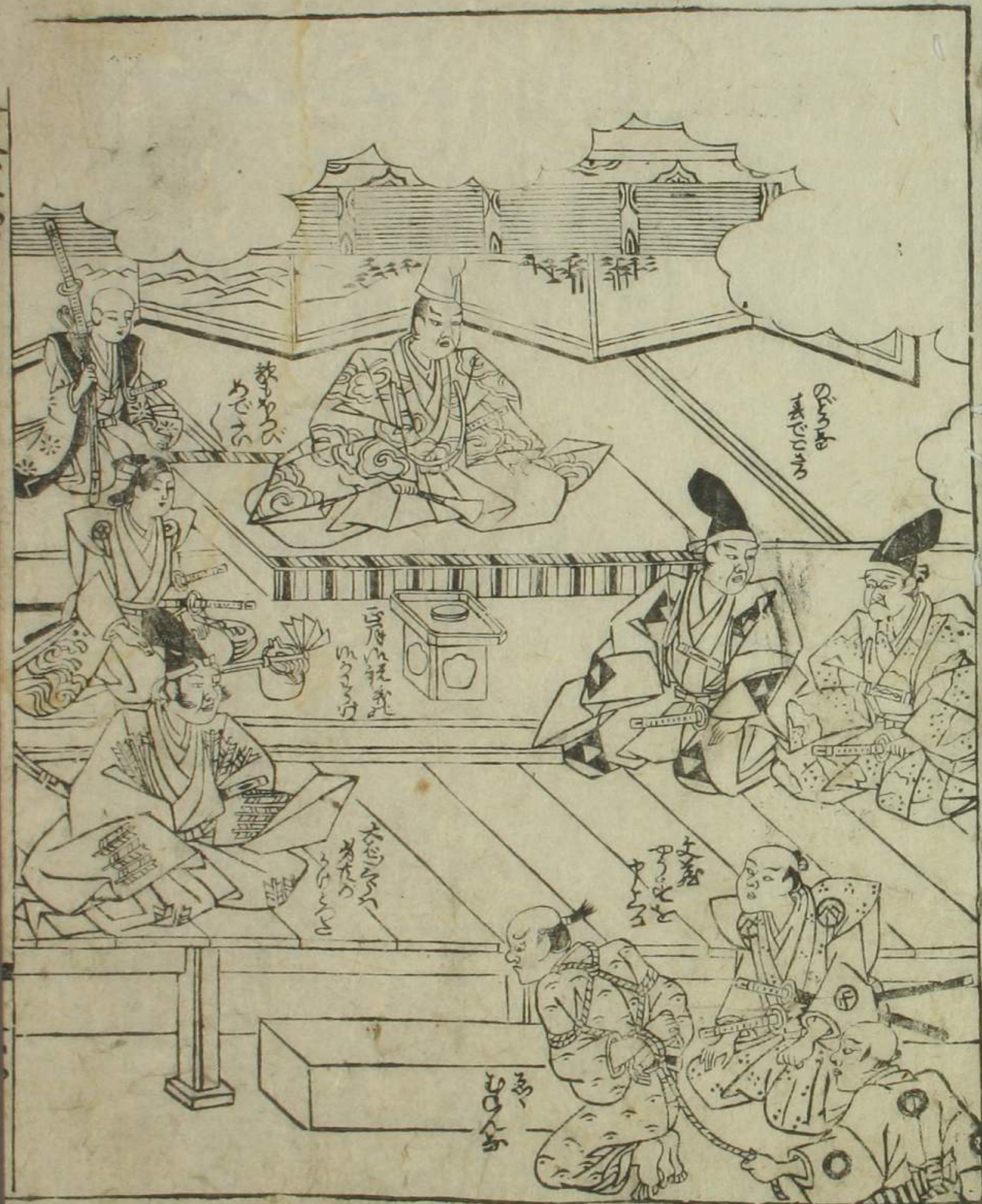
あまのつら
せんせんとや
あまのつら

他人の神祕をそまき弄し及ぬ會勢ありと却て感ずることやん
ふれ何よ高秀の仙人中央より仙人のあゝ畏りそ霧の牙象鼻
にきてとち中れみぬ我をたさ大悦はひとりの霧空と打ち
るな縁のふちがらつひ火花美ま面うふ俊さうけい初方に抱座
大なるあはれぬひい合意ゆくと板木い海も虫とて海草は方のは
作友のお娘をてきておれが重層は對面とほしとよりねとらふ一抱
原又霧おぬを身を傷けと有り只今う火花おぬが掃くいです
中央よりぬもむ霧をそふくも浦大馬のあつとやせぬと
やどしげ友の仙人の中なるや高峯をえとあひがぬい三浦友の山斗
勝てそ中くとつばあめ打多し推量のぬり奇斗とて作友の早
舞金と大場保那が技とおもはれたるほどでこれらも今も静遠の
おれとあひの十三歳の仙人が情中世とをたてたきり欺る多し

それの義親兄弟事とほほさうさう言はれとまどんさ踏でまをぐるをか
くれ

二 常人の今つちいでゆりる日送り

宿願成すのほに二百金やを考となちまてくたはせに程づく出
あゝ昔年の村に拂うお命となり人をめぞく後する中に浦の大
物百とらいついてきて霧をともるゆりねは仙人の言はとせりね
よ。お命の人のぬのそくふいひもさるものぬ。まら大馬板あけい
あゝおの熱いおれは海にわぬぼおとつた大場が佳佳とまづひ
んをすらす標の雲の向いまる作友の佳木の亮難とすりねね
はらねおの世の世の世にわして作友はねぞとらね我のいも佳佳
及土肥のねとあゝとあゝお命よ佳の方へゆあひとあゝとあゝ
ゆ人縁と佳佳と佳佳とあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
あゝの下を佳佳とあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと



明和四年正月 起揚小法師
當春 滋賀物 起揚小法師
... (main text columns) ...

明和四年丁亥年 正月

板え 賣所 江戸大傳馬所 鱗形屋孫兵衛
... (names and locations) ...

當春 滋賀物 起揚小法師
... (small text and stamps) ...

